

<h1>指導資料</h1> <p>鹿児島県総合教育センター 令和4年4月発行</p>	<h2>国語 第155号</h2>		
	<p>対象 校種</p>	<p>小学校 中学校 高等学校 義務教育学校 特別支援学校</p>	

「個別最適な学び」の実現を目指した 国語科における学びのデザイン

児童生徒の主体的な学びの推進は、我が国の教育史の中で叫び続けられてきたことである。中教審答申『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」がキーワードとして登場した。本資料では、国語科の学びをデザインするために、「個別最適な学び」に着目し、実践例を踏まえながら、その実現に向けての考え方を提案する。

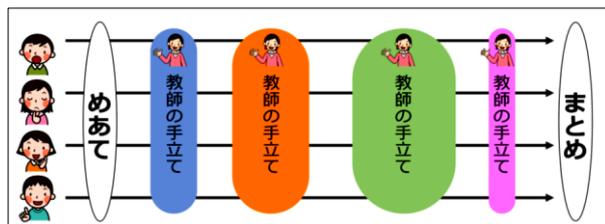
1 はじめに

～国語科における学びのデザインとは～

国語科は、人の営みの土台を形成する教科であるとよく言われるように、論理的思考力やコミュニケーション能力、感性・情緒を育む教科である。よって、児童生徒たちは義務教育段階からこれらのことを積み重ねたり繰り返したりして国語を学んでいくこととなる。しかし、反復的、蓄積的な学習内容が多く、他の教科等に比べて学ぶ必要性を感じにくい、学んだ実感を捉えにくい、そして学びによる自己の変容を感じにくいという印象をもつ児童生徒も少なくないと感じる。しかも、こうした感覚は児童生徒一人一人様々である。これらのことから、児童生徒の国語科の学びをよりよく実現するためには、資料1のような指導者が学びを牽引する教師主導の学びよりも、学習者が自分自身で駆動する児童生徒主体の学びの実現を目指す必要が他教科等よりも強いと言える。

また、国語科は言語活動を通して、国語科で培う資質・能力の三つの柱を育成する教科である。そのため、単元を貫く言語活動を設

資料1 指導者が学びを牽引する学びのイメージ



定して指導計画を作成することが大事であり、1単位時間という短いスパンではなく、単元という長いスパンで学んでいくことが多い教科である。その際、教師は学習指導要領の言語活動例を基に設定することとなるが、今回の学習指導要領の改訂で「言語活動の充実」から「言語活動の創意工夫」になったという経緯からも察することができるように、教師は学習内容や児童生徒の実態に応じて、最適な言語活動を設定する必要がある。

つまり、国語科における学びのデザインとは、児童生徒が主体的に学ぶことができるように、国語科を学ぶよさを実感できる言語活動を通して、児童生徒一人一人の実態に応じた学びが保障できるように児童生徒の目線に立った学びを考えるということである。

2 国語科における「個別最適な学び」

国語科教育の潮流の中で、児童生徒に身に付けさせたい力として声高に言われるのは、「自分の考えをもつ」ということである。

「読むこと」の領域の学習、「読解力」を例に考えると、これまでの「読解力」とは書いてあるものをそのまま理解するということがであった。しかし、現在の「読解力」とは、読み手が読んで理解するだけでなく、一人一人が「自分の考え」をもった上で話したり、書いたりして表現する段階までを含めることが多い。さらに、現行の学習指導要領では、「自分の考え」を形成する学習過程をより重視するとしており、「考えの形成」に関する指導事項が全ての領域に位置付けられるようになった。そのため、児童生徒一人一人に確固たる「自分の考え」をもたせるために、教師は個に応じた手立てを講じる必要があると言える。

しかし、教師一人による一斉指導では、児童生徒一人一人に応じ、寄り添った学び、いわゆる「個別最適な学び」を全ての児童生徒に保障することは困難である。したがって、教師は一斉指導ありきの従前の授業づくりから、児童生徒一人一人の実態に応じた「個別最適な学び」にシフトチェンジするなど国語科の学びを変えていくことが望まれるのである。

そこで、資料2のAのように、教師が内容も方法も設定する一斉指導による集団学習から、BやDのように学習方法を決める主体が児童生徒である「指導の個別化」、CやDのように学習内容を決める主体が児童生徒である「学習の個性化」を進めていくことを実践例を踏まえて提案する。

(1) 「指導の個別化」について

キーワード	個に応じた～
-------	--------

私たち教師は児童生徒の学びを想定するとき、その学びがよりよくなされるようにワー

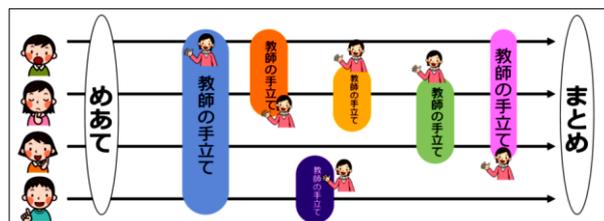
資料2 国語科における個別最適な学びのイメージ

		学習方法を決める主体		学習の個性化
		教師	子供	
学習内容を決める主体	教師	A 集団学習（一斉指導） (例) ・ 同課題同言語活動学習 ・ 同課題同進度学習 ・ 同課題同形態学習 など	B 方法選択学習 ・ 同課題異言語活動学習 ・ 同課題異進度学習（単元内自由進度学習） ・ 同課題異形態学習（自由に享有できる学び合い）	
	子供	C 課題選択学習 (例) ・ 異課題同言語活動学習 ・ 異課題同進度学習（「自分の問い」を一斉で追究） ・ 異課題同形態学習（「自分の問い」を同一形態で追究）	D 個別追究学習 (例) ・ 異課題異言語活動学習 ・ 異課題異進度学習 ・ 異課題異形態学習	
		指導の個別化		

クシートや発問、言葉による見方・考え方を働かせるための「しかけ」など、様々な手立てを講じる。しかし、それらは、学習集団の平均的な高まりを期待して設定した一斉指導がほとんどであり、児童生徒一人一人に十分寄り添った指導には必ずしもなり得ないことが多い。つまり、その手立ては資料1のような集団全体の「児童生徒たち」に対する全体的な手立てであり、一人一人の「児童生徒」の実態に応じた最適化された手立てであるとは言い難い。

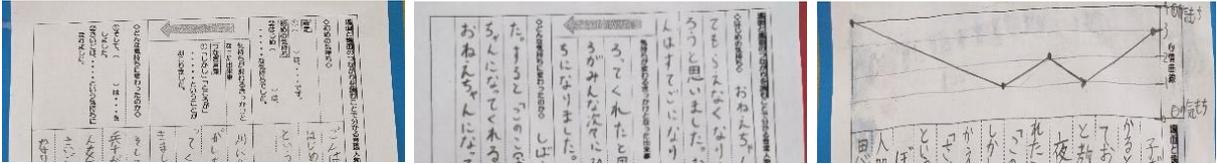
児童生徒一人一人がもつ特性やこれまでの学習経験などから、学力や学びに対するモチベーション、追究の仕方等が全く同じ児童生徒は一人としていない。それは、児童生徒一人一人のレディネスや思考のスピード、思考過程等が異なるからである。そこで、資料3のように、児童生徒一人一人の状況を把握し、一人一人の状況に応じた方法やタイミング等の手立てを講じることが効果的であると考え

資料3 「指導の個別化」を意識した学びのイメージ



その際、教師は全く新しい手立てを講じるのではなく、これまでの手立てを「個に応じた～」という視点で見直すことが有効である。

(例)「個に応じた」ワークシート



ワークシート① 構成の枠・書き出し ワークシート② 構成の枠付き ワークシート③ 心情曲線付き

登場人物の気持ちを読み取り、「人物の紹介カード」を全員が書けるようにするために、難易度やヒントの度合いが異なる複数のワークシートから選べるようにした。

(鹿屋市立笠野原小学校 山之内教諭の実践から)

(例)「個に応じた」追究の視点

追究の視点

- ① 5W1H
- ② 題名
- ③ 各連のテーマ
- ④ 作者の言いたいこと



詩を読み取る際、難易度によって分類した「追究の視点」を示し、自分の能力に応じて選んで追究できるようにした。その後、生徒たちは視点ごとにエキスパートグループを形成し、協働しながら追究した。

(薩摩川内市立平成中学校 宮内教諭の実践から)

(2) 「学習の個性化」について

キーワード	自分で決める～
-------	---------

児童生徒の学びを実現させるための手立てを講じる際、これまでは一斉指導を行う都合上、教師が児童生徒に対して一律に示したり、一律に発問したりするなど、学習集団全体に対して同じ手立てを講じることがほとんどであったと言える。その手立ては、必ずしも学習集団全員に対して効果的であるとは限らない。児童生徒によっては、自分の学びを実現していく中でその手立てに対して必要感を感じられない場合もある。これでは、児童生徒たちは自分の学びとしての自覚が薄れ、学習意欲が高まりにくいと考える。そこで、学びに対して児童生徒一人一人の学びの意識を高めるために、児童生徒が学びの中で決めることを増やしていきたい。

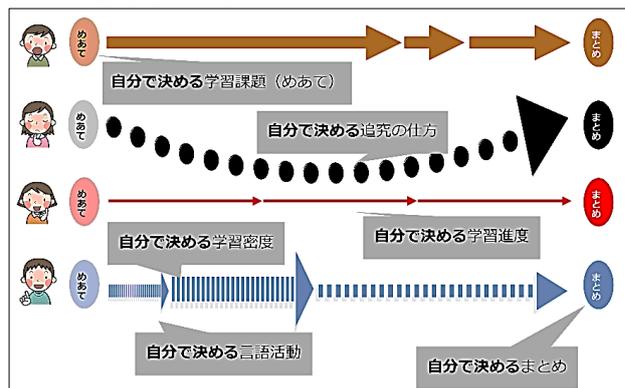
また、同じ学習課題（めあて）であっても、児童生徒一人一人によって興味をもつところ、大事にしたいところなど異なるものは多い。本来教師は児童生徒一人一人の実態に応じた指導をするべきであるが、直接的に関わるには限界がある。

そこで、教師が直接指導することに固執せ

ず、間接的に関わる手立ても視野に入れることで、児童生徒一人一人がそれぞれ注力したいことに時間を掛けて学ぶことができるようになりやすくなるを考える。つまり、資料4のように、児童生徒一人一人が大事にしていることに応じて、自分で学習課題（めあて）を立てたり、追究するための言語活動や時間配分を決めたりするなど、自分自身で学びをデザインできるようにすることが肝要となる。しかし、全てを児童生徒に委ねるわけではなく、教師が決めることと児童生徒が決めることを明確にしておくことが重要である。

その際、これまでは教師が学習集団全体に行ってきた手立てを、「自分で決める～」という視点で見直すことが有効である。

資料4 「学習の個性化」を意識した児童生徒の学びのイメージ



(例)「自分で決める」学習計画

教科書会社が提案している言語活動や単元計画を基に、学校行事や他教科等の学びと結び付けたり、必要感が増すような学びのストーリーを構築したりすることも有効な手段である。

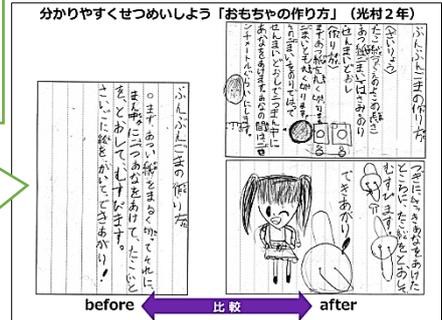


○ モデルの提示

教師作成のモデルを基に学ぶ必要感を感じ、それを基に学習計画を立てる。

○ 試しづくり

単元の導入に試しの言語活動を行い、児童生徒が感じた困難さや不確かさを起点に学習計画を立てる。



(筆者の実践から)

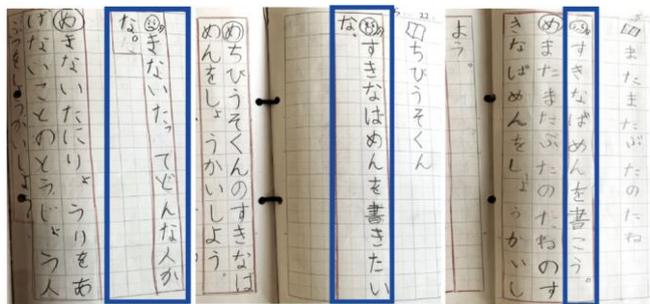
(例)「自分で決める」学習過程 (時間配分)

13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	時
作成したカードを発表し合う。													主な学習活動
「登場人物紹介カード」を作成する。 ・ごんのカード ・自分の選んだ本の登場人物のカード													
自分の考えの再構築・確認をする。													
考えたことを互いに共有する。													
ごんと兵十の気持ちの変化を読み取り、自分の考えをもつ。													
登場人物の言動、情景への着目 場面ごとの読み取り 場面同士の比較 自分の考えの構築													
学習課題を確認し、学習の見直しをもつ。													
自分の問いを立てる。													

学習内容やまとめ(発表会)の期日を同一としながら、児童生徒の学習進度や追究の仕方を一人一人に委ねた単元内自由進度学習を行った。「読むこと」と「書くこと」の複合単元として構成し、第3～7時では登場人物の気持ちの変化についての読み取りを、第10～12時では「登場人物紹介カード」を自分なりのペースで学習できるようにした。

(鹿屋市立笠野原小学校 山之内教諭の実践から)

(例)「自分で決める」学習課題 (めあて)



学級全体で一つの「学習課題 (めあて)」を設定するのではなく、自分が追究していきたいことを児童一人一人が「自分の問い」として設定する。その際、「自分の問い」を立てやすいように、自分の思い(左の写真の太線囲み)を基に考えさせるようにした。

(鹿児島市立山下小学校 国語班の実践から)

4 おわりに

「指導の個別化」、「学習の個性化」を意識した学びのデザインは、児童生徒一人一人の実態や教師の指導観等によって異なって当然であり、異ならなくてはならないと言える。その土台となる私たち教師のスタンス自体を、これまでの既成概念に囚われず、変えていく勇氣が必要であると強く思う。

※ 詳しい内容は次の URL を参照してください。
<http://www.edu.pref.kagoshima.jp/research/result/happyou/r03/top.html>

鹿児島県総合教育センターWeb サイト
 令和3年度調査研究発表会資料



—主な参考・引用文献—

- 中央教育審議会『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)2021
- 愛知県東浦町立緒川小学校「個別学習と集団学習をつなぎ個性と協調性を同時に育てる」2007, ベネッセ VIEW21(小学版)
- 苫野一徳『学校』をつくり直す2019, 河出書房新社
- 西川純「人生 100 年時代を生き抜く子を育てる! 個別最適化の教育」2019, 学陽書房
- 養手章吾「子供が自ら学び出す! 自由進度学習のはじめかた」2021, 学陽書房
- 鹿児島県総合教育センター「指導資料 国語第151号」2021

(教科教育研修課 石川 雅仁)